

第1号議案 平成27年度事業報告について

I 事業推進の概況

平成27年度の4月1日在籍数は(就労移行7名・継続B型43名・生活介護10名)60名でスタートいたしました。年度途中で2名が退所したことや夏の猛暑で体調を崩した影響で就労継続支援事業B型の年間平均稼働率としては94.4%でした。

施設の安定的な運営として「利用者の確保」を前提に、支援学校から16名の実習生を受入はしたものの、仙南の新規事業所等に流れた経緯があり今後の受け入れ態勢の整備が大きな課題となりました。

平成28年4月には、就労継続支援事業B型に4名が新規に利用開始しております。

また、3月に「まどか西中田」のサテライトの出入り口の改修工事の発注を行い、4月半ばに車の安全な出入りと駐車スペースを確保いたしました。

さらに、就労支援体制の見直しを検討し、「作業メニュー」と委託事業の開拓を行いました。新しく取り組んだ作業としては「農園事業」「ペーパー販売事業」「委託清掃(たんぼぼホーム)」などを行いました。平成28年度からは、農業経験者2人の指導の下「まどか野菜」を栽培し、直売を推進してまいります。

II 事業別の実績

1 利用状況(年間延べ利用日数及び利用率)

就労移行支援事業	1. 418日(80.4%)	平均利用実人員 6名
就労継続支援事業B型	10. 229日(94.4%)	平均利用実人員41名
生活介護事業	2. 058日(85.7%)	平均利用実人員 9名

2 就労移行支援事業

今年度も一般就労を希望する方を対象に、就労講座(パソコン・ビジネスマナー等)の開催や企業見学会・職場体験実習・仙台市障害者就労体験実習に参加・支援を行い、それに伴う各種会議・研修会にも参加をしましたが、就労に結びつくことはできませんでした。平成27年度で移行の利用を終了する2名から延長希望があり市町村に延長申請を行ったところ審査会の承認を得て、継続し就職を目指すことになりました。また、今年度からは、支援学校等卒業予定者を対象とした就労アセスメント(通称:ダイレクトB)を学校・行政等と連携した対応を行いました。ジョブコーチ支援活動もこれまで同様に行い、職場と就労者が働きやすい職場作りに成果を上げました。

3 就労継続支援事業B型

平成27年度は、再建後3周年を迎え、これまで好調であった復興支援も終了したためか「クラフト商品」が全く振るわないという事態に陥りました。就労作業の全面的な見直しを迫られ「トイレットペーパーや生花業者の新聞を折りたたむ作業」などの事業に挑戦してきました。ベーカリー部門では、近隣の施設や保育園等へのパンの注文販売を進めるなど、売上の向上に努力をしております。しかし、目標工賃に届かず今後さらなる努力が必要と痛感しております。また、障害を持つ方が地域社会で自立していくため、その有する適性や能力に応じた多様な作業を確保していく事を念頭に置き、作業内容の見直しを進めたいと考えております。

さらに、外部からの見学者・ボランティアの受入を積極的に行ったことでパンやクラフト商品の売上に繋がりました。

広報活動の推進としては、速やかな「ホームページ・ブログ」による情報発信や「まどか通信」による広報紙の発行(年7回)で「利用者の活動、施設内のニュース」等を掲載し広報に努めました。

4 生活介護事業

平成27年度は、4月に7人の利用者が利用開始し定数通り10名でのスタートになりました。前半は個別に対応することが多く、支援員との信頼関係づくり(レポート)に追われました。しかし、9月を過ぎると利用者の特性や生活介護全体の体制が確立し、日中活動の充実や健康増進・維持などのカリキュラムを取り入れたメニューが展開できるようになりました。

今後は、新たな活動メニューを取り入れ、地域と直接交流するなどの活動を通して、社会性や自立の促進を目指した活動にしたいと考えております。利用者の特性を捉えたより一層の「個別支援」を目指していきたいと思っております。

5 相談支援事業

計画相談支援として、平成27年度は内部利用者30件、外部利用者10件、児童1件で、合計41件の計画作成を行いました。その内3件は白石市、大崎市、加美町からの相談でありました。

基本相談支援としては、平成27年度は内部利用者4件、外部利用者（障害児）4件、合計8件の相談を受け、助言、情報提供の支援を行いました。

相談支援専門員には幅広い知識と情報が必要になりスキルアップの為、社会資源の活用や事例検討会（毎月）、事業所間の情報交換等、年6回行われる「太白区相談支援プロジェクト」や行政等で開催される研修会に随時参加しています。

このような中で、相談事業は経営的に非常に問題があり、1名の職員を配置しておりますが、その人件費を賄える状況にはありません。今年の2月に本事業を「休止」できないかを仙台市に相談したところ、「休止」は可能であるが現在契約している41件及び受付している20件分を全て他の相談支援事業所へ移行した時点で「休止の申請書」を提出して欲しいとのことで、かなりの時間と労力がかかるものと考えられます。

III 寄付関係報告

寄付金総額 523,000円

内 訳

①法人役員	512,000円
理事	
②その他	11,000円
聖ルカ幼稚園	

第2号議案 平成27年度収支決算報告について

別紙「平成27年度財務諸表」のとおり決算しましたので、ご審議の上、ご承認をお願いいたします。

1. 資金収支計算書は、資金の収支を明らかにする財務諸表です。

事業活動収入合計は、121,437千円で、内訳は就労支援事業収入14,376千円（内部取引除く）及びサービス等事業収入（訓練等給付費、補助金）の105,071千円、寄附金収入、受取利息配当金収入・その他の収入は1,990千円となりました。

一方、事業活動支出計は111,816千円（内部取引除く）となり、その他の収支計算後の当期資金収支差額合計は9,368千円、前期末支払資金残高35,566千円を加えた当期末支払資金残高は44,934千円となりました。

2. 事業活動計算書は、損益計算書の福祉版であり、法人の事業活動の成果を明らかにした財務諸表です。当期は前期の経費削減策が実り、まずまずの収益が確保できました。結果、経常増減差額1,920千円、当期活動増減差額1,920千円、結果、当期末繰越活動増減差額は52,662千円となりました。

3. 貸借対照表は、会計年度末における財産状態を明らかにした財務諸表です。純資産の総額は、254,818千円となりました。

4. 就労支援事業活動明細は、事業収入16,211千円（内部取引含む）に対し、事業支出が16,214千円（工賃支払後）となりました。主な部門別状況は、ベーカリー部門の目標額（11,046千円）に対して、売上高（11,186千円）となり、101%でした。また、クラフト部門の目標額（2,316千円）に対して、売上高（2,286千円）で99%という実績となりました。

最後に、今期の主な状況としては、利用者定数の増で、利用者52名から59名と7名の増員となりましたが、65名の予定には達しない中での「まどか西中田」のスタートとなりました。また、サテライト新設の為、消耗品・土地建物賃借料などの経費がかさみました。

さらに、農園事業の本格実施にあたり、農地の確保と農業指導員を雇用した事で「野菜の収穫・袋詰め」など利用者と共に活動的な作業をすることが出来ました。

第3号議案 監査報告について

別紙資料参照